

ら しん ばん 羅 針 盤



進路だより 第二号

平成 22 年 5 月 1 2 日(水)発行
福島県立双葉高等学校 進路指導部

2010年大学入試センター試験

……2年連続で受験者増だったが、平均点大幅ダウン(特に理系)、経済状況の悪化から安全志向・地元志向がより顕著に

今年度のセンター試験は、志願者数、受験者数共に2年連続の増加の中で実施された。得点状況は900満点(7科目)で、文系が約8点、理系が約29点のダウンで(平均点前年度比較、特に数A-15点、化学-16点、物理-9点の影響が大であった)“理系ショック”のセンター試験となった。そのため、受験生の出願は“安定志向”となり、1ランク落とした出願に動いたと思われる。そしてその傾向は特に理系の学部・学科に強かった。

私立大では全私立大の9割がセンター試験に参加し、全志願者におけるセ試利用入試の割合はMARCH(明治,青学,立教,中央,法政)レベルで約30%、日東専駒(日大,東洋,専修,駒澤)レベルで約37%と、今や“セ試抜き”では私立大入試戦線を語れない状況だ。

国公立大個別入試

セ試の平均点ダウンによる“安定志向”と経済状況悪化による“地元志向”が強まり、旧帝大等の難関大からランクを下げ難易度の低い地元大にシフトした受験生が多かったようだ。

特筆されるのは、公立大志願者の大幅な増加で、これはセ試の平均点ダウンによるもので、来年平均点が大幅アップすれば、**隔年現象**で志願者が減少し、ネライ目の大学になることに注意したい。

私立大入試

経済状況の悪化から私立大でも自宅から通学できる大学を選ぶ“地元志向”が強まった。入試種別で見ると、一般入試では前年比101%と微増にたいし、セ試利用は108%と大幅な増加だった。

系統別では、教育・児童・子ども系統、人間・健康系統、看護系統、保健系統は“資格志向”と相まって志願者が大幅に増加した。また理系は“理工離れ”に歯止めがかかり、人気回復した。

大学別にみると、“安定志向”から難関大の「JWK(上智,早稲田,慶應)+東理大」、「MARCH」、「関関同立」は志願者がやや減り、また“地元志向”から広域型の難関大は苦戦した。また全国的に、女子大は久しぶりに人気を集めた。

知っておきたい受験用語

隔年現象……一年おきに競争率が上下する現象。志願者の急増した翌年は高倍率を嫌って敬遠されるため競争率が下がる。逆に低倍率の翌年は志願者が増加する傾向がある。

センター試験でどれだけとれば合格?

国立大 福島大,茨城大ならば7科目合計点で65%以上
私立大のセ試利用入試(3科目合計)
MARCHレベルで80%
日東専駒レベルで70%以上は欲しいところ

若葉の頃

先々週と先週二週続けて、私的な用事で高瀬川渓谷を車で通る機会があったのですが、途中、木々の新緑の美しさに圧倒されました。そして一週間足らずの間に、緑が一段と濃くなったのを感じました。その時ふと、春の芽吹きを始まりとして人生を四季にたとえるならば、高校時代というのはまさに五月の新緑の頃だと思いました。(ちなみに私は秋の紅葉が終わりかける頃?)

一口に新緑といっても微妙に濃淡があってその緑のコントラストが美しく、またみずみずしく生命力に満ちあふれていて、みなさん一人一人が若葉そのものという気がしました。これから六月の梅雨時にたっぷり水分と養分をとり、成長して更に濃いしっかりとした緑の葉っぱになるわけですが、みなさんもそのように成長して欲しい、いや育っていくのだから、なんて思ったのでした。